

2月14日（日）

祈年祭を行いました。祈年祭は「きねんさい」と読みますが、「としごいのまつり」とも読みます。「とし」は稲の美称で、「こい」は祈りや願いのことで、お米を始めとする五穀の豊かな稔りを祈ることを意味します。その年の五穀豊穰を祈る祭りです。もとは宮中の祭りで、奈良時代には陰暦の2月4日に行われていました。

農耕が生活の中心であった古代、豊作を祈ることは国家の安泰に直結します。そのため祈年祭は国家規模で執り行われ、延喜神名式によると、全国2,861社の神々に幣帛（お供え物）が奉られていました。

祈年祭で五穀豊穰が祈られると、秋には収穫に感謝する祭りが行われます。それが11月23日に行われる新嘗祭（にいなめさい）です。願い事の祭りをすれば、必ずお礼の祭りをします。皆さんは神社に詣でて祈願したのち、その願いが成就すればお礼に参拝されますか？ これを「お礼参り」と言います。近年では、ある団体が仕返しにくることを「お礼参り」というようですが、もともとは神道用語です。

願い事が成就しなくても報告のためにお参りするのが礼儀です。これを神道では「奉告（ほうこく）」と言います。初宮詣や七五三詣以外にも、入学や入社、結婚など、人生の節目節目にお参りして奉告し、新たな御加護を戴きましょう。